

鳥羽湾めぐり観光船待合所

個人向けワークショップで鳥羽市を活性化

南山大学経済学部

神野ゼミ

Dグループ

近藤雄規

楠 絢賀

田中人志



# 鳥羽市とは？

## 【三重県鳥羽市】

人口は17,046人（令和5年4月30日時点）。リアス海岸を特徴とする沿岸沿いや沖で取れる**海の幸**が堪能できる！

海女漁は、世界で日本と韓国の一部にしかみられず、国内でも総数の約半分にあたる750名ほどが鳥羽に。海女が中心的な役割を果たす祭行事や呪符などの信仰が現在でも継承されている。

鳥羽市には、イルカたちと触れ合える、360℃海に囲まれた自然豊かな**イルカ島**（日向島）、海女さんたちと一緒に海の幸を楽しめる**海女小屋はちまんかまど**などレジャースポットが多数点在する。

鳥羽市は、**町全体が伊勢志摩国立公園**である。伊勢神宮で有名な伊勢、スペイン村のある志摩など、周辺の観光地（伊勢、志摩、ともに車で30分ほど）もたくさん。また、**世界で初めて真珠養殖**に成功した街としても有名である。

出典：三重フォトギャラリー(<https://photo.mie-eetoko.com/>)、[precious.jp](https://precious.jp)「伊勢志摩の「ミキモト真珠島」は、大人の女性なら一度は訪れるべき場所！」(<https://precious.jp/articles/-/6615>)



赤色に近いほど、検索数が多い

# 鳥羽市の現状

企業数（企業単位）

付加価値額（企業単位）

従業者数（企業単位）



産業別修正特化係数



- ・ 主要な産業は、企業数、付加価値額、従業者数どれをみても**宿泊業・飲食サービス業**である。
- ・ 産業別修正特化係数から、**水産業**を初めとする一次産業も得意とする。
- ➡ 宿泊業が強いことが分かったため、次のスライドから、宿泊施設や観光についてみていく。

# 鳥羽市の現状

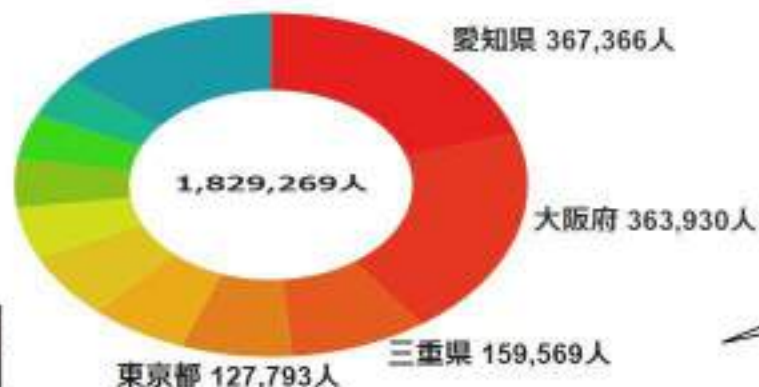
## 平成26年時点 三重県市町別宿泊施設数



宿泊業が強いだけに、  
県内の市町で**宿泊施設数が一番多い**。

## 居住都道府県別の延べ宿泊者数（日本人）の構成割合

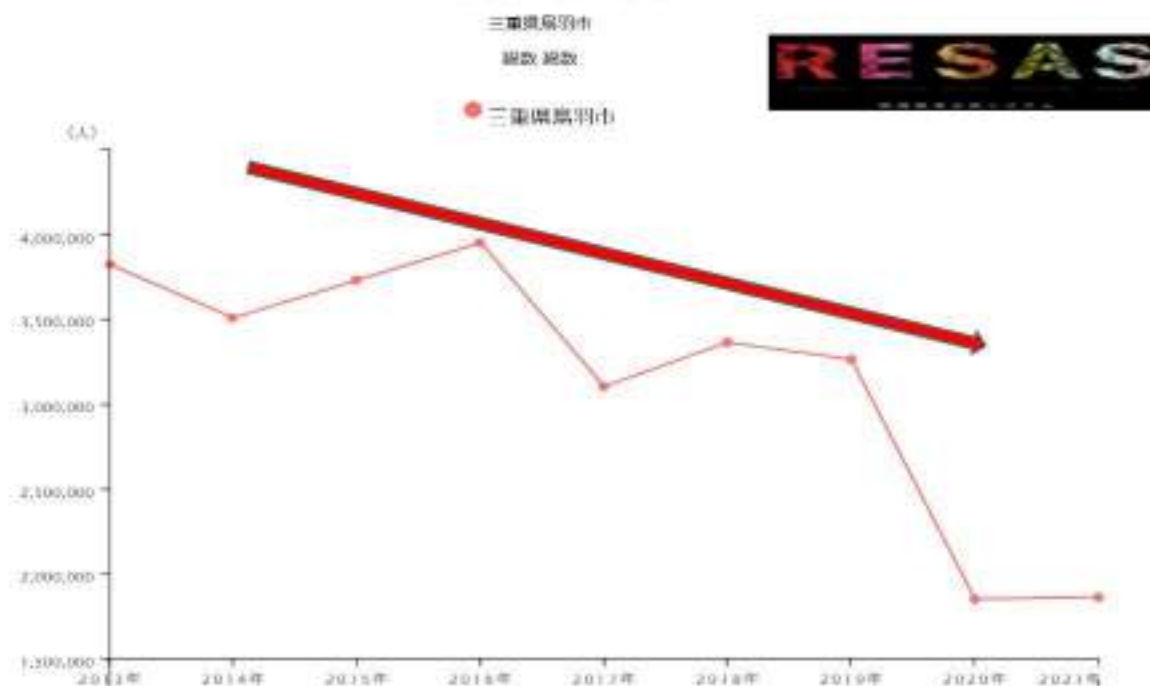
三重県鳥羽市  
2020年



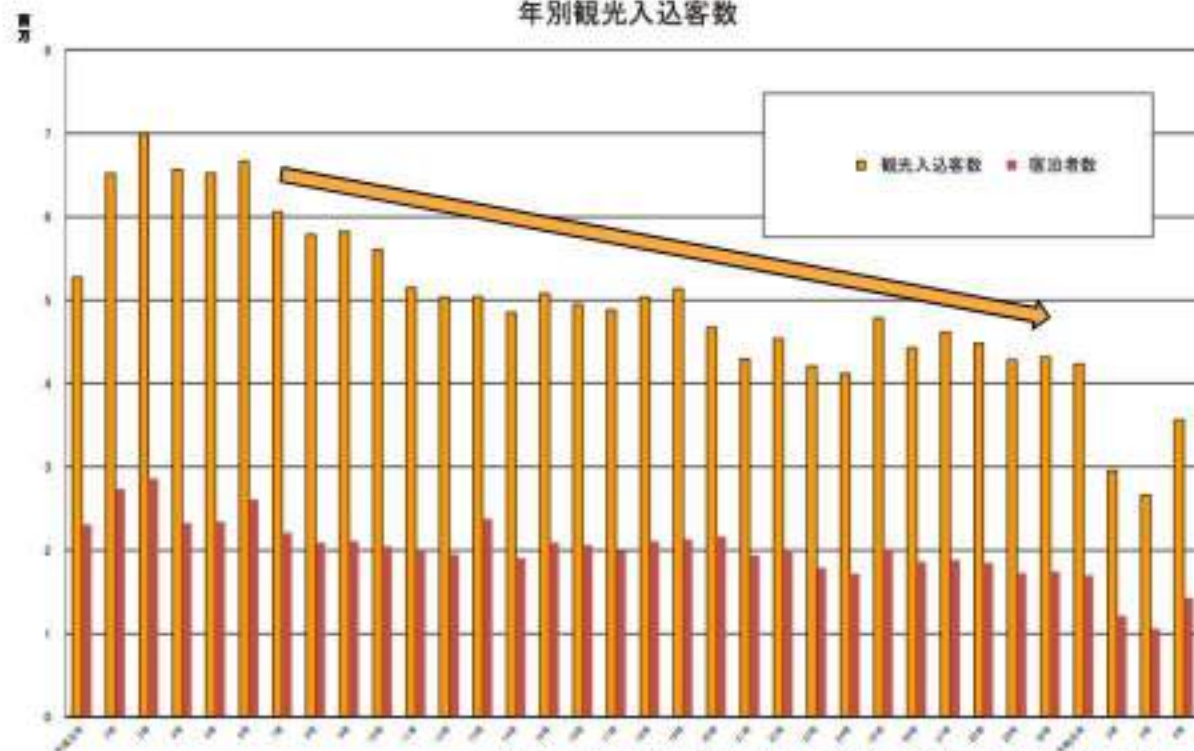
愛知、東京、大阪など**都市からの宿泊者が多い**。  
鳥羽は**都市からのアクセスは良好**で、それぞれ  
東京:約3時間半、大阪:約2時間、名古屋:約2時間半  
(いずれも公共交通機関によるもの)。

## 【観光客、宿泊者数の現状】

延べ宿泊者数の推移



年別観光入込客数



出典:三重県鳥羽市観光課「令和4年鳥羽市観光統計料」  
([https://www.city.toba.mie.jp/material/files/group/2/r4\\_kankotoukei.pdf](https://www.city.toba.mie.jp/material/files/group/2/r4_kankotoukei.pdf))

鳥羽市の主要産業は宿泊業・飲食サービス業であるが、**観光入込数、宿泊者数は減少**している。

# 鳥羽市の課題



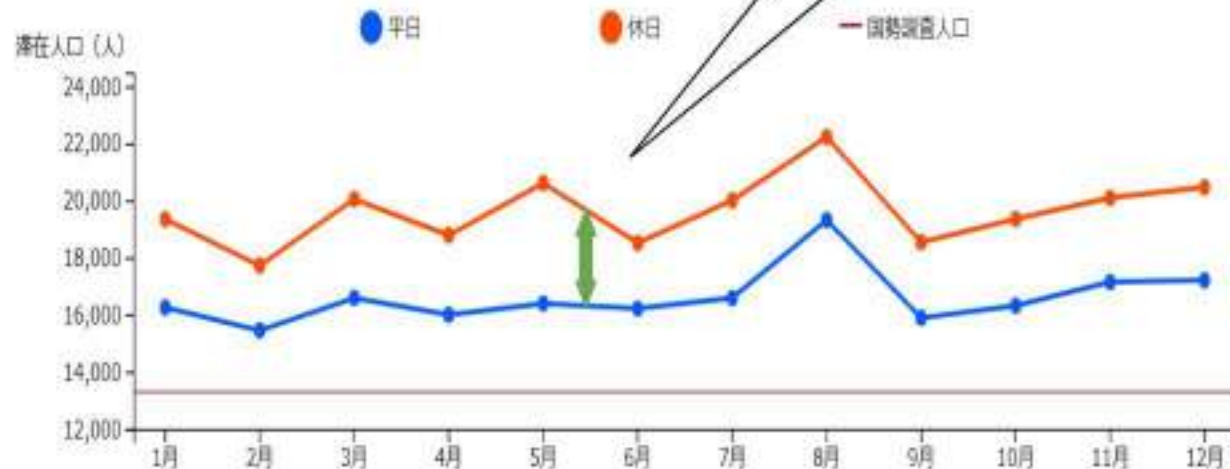
## 滞在人口の月別推移

三重県鳥羽市

2022年14時

総数 総数 (15歳以上80歳未満)

(国勢調査人口: 13,323人)



## 令和4年度 鳥羽市月別宿泊者数(単位:人)

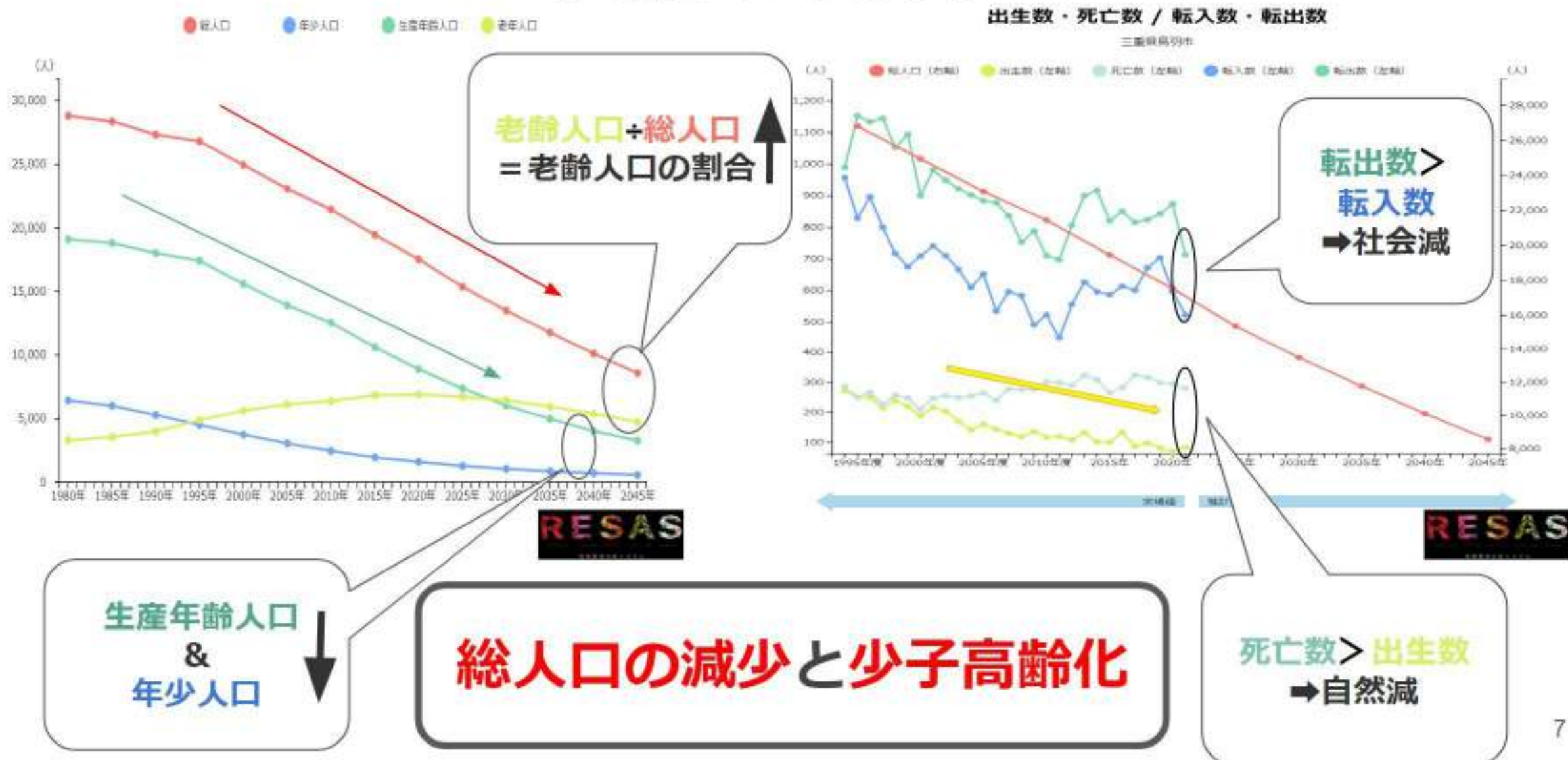
月別	宿泊者数
1月	96,841
2月	61,392
3月	116,767
4月	99,665
5月	118,702
6月	101,322
7月	121,421
8月	175,261
9月	114,931
10月	130,770
11月	153,641
12月	137,038
合計	1,427,751

宿泊者が1番多い8月で175,261人。1日に換算する(175,261人÷31日)と、約5,653人。同資料より、鳥羽市の宿泊施設の収容可能人数は12,899人。よって、稼働率約43%  
また、一番少ない2月は同様に計算して、稼働率17%。

出典: 三重県鳥羽市観光課  
「令和4年 鳥羽市観光統計資料」

- ・1年を通して休日よりも平日の方が滞在人口が少ない。よって、宿泊者も平日の方が少ないことが予想される。
- ・1年の中で宿泊者が一番多い月は8月であり、一番少ない月は2月である。よって、宿泊施設の収容力に対するだいたいの稼働率は17%~43%。つまり、多くの部屋が有効利用されていないと考えられる。

## 【鳥羽市の人口推移】



## 鳥羽市の現状と課題まとめ

### 現状

- ・ 鳥羽市の**主要産業は宿泊業・飲食サービス業**(宿泊施設数は三重県内で1位)。  
加えて、**水産業**も全国的にみて得意な産業。
- ・ 愛知、東京、大阪といった**都市からの宿泊者**が多い。

### 課題

- ・ **観光入込数、宿泊者数は減少**している。
- ・ **宿泊施設の稼働率（特に平日）が低い**。
- ・ **人口減少、少子高齢化**問題。

豊富な鳥羽及び周辺地域の観光資源（世界的にも珍しい海女さん文化、綺麗な海と真珠、豊かな緑）や都市からのアクセス性を生かし、滞在客数や総人口の増加に繋がれないか。⇒私たちは関係人口増加を期待でき、宿泊施設、レジャー施設を用いるワーケーションが、鳥羽市の問題解決に適していると考えた。



# ワーケーションとは？

## 【ワーケーションの定義】

テレワークなどを活用し、リゾート地や温泉地、国立公園等、普段の職場とは異なる場所で余暇を楽しみつつ仕事を行うこと。

実施形態(イメージ)

出典：総務省「関係人口ポータルサイト」  
(<https://www.soumu.go.jp/kankeijinkou/about/index.htm>)

企業や自治体によって、様々な実施形態がある



出典：観光庁「新たな旅のスタイル」  
(<https://www.mlit.go.jp/kankochou/workation-bleisure/>)



## 【ワーケーションの効果】

ワーケーションによる人の往来によって**関係人口(地域のリピーター)**を創出し、**人口増加・地域活性化**が期待できる

仕事

休暇

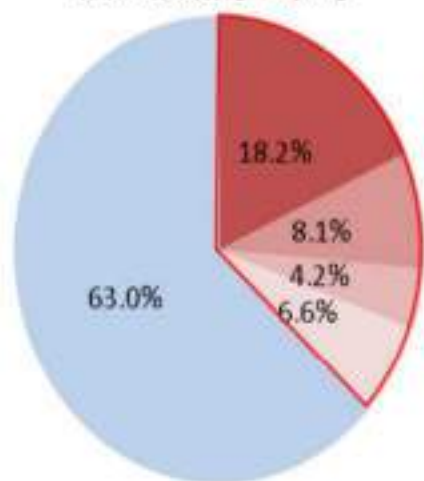
「work」 + 「vacation」 = 「workation」

## 【ワーケーションを行うことで得られるそれぞれのメリット】

従業員 のメリット	企業 のメリット	行政・地域 のメリット
<ul style="list-style-type: none"> <li>気分のリフレッシュ</li> <li>生産性の向上</li> <li>新たな出会いやアイデアの創造</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産性の向上</li> <li>社員満足度の向上</li> <li>離職の予防</li> <li>有給休暇の取得促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平日の旅行需要の創出</li> <li>交流人口と関係人口の増加</li> <li>遊休施設等の有効活用</li> </ul>

# ワーケーションに対する関心度

雇用型就業者[n=35,727]

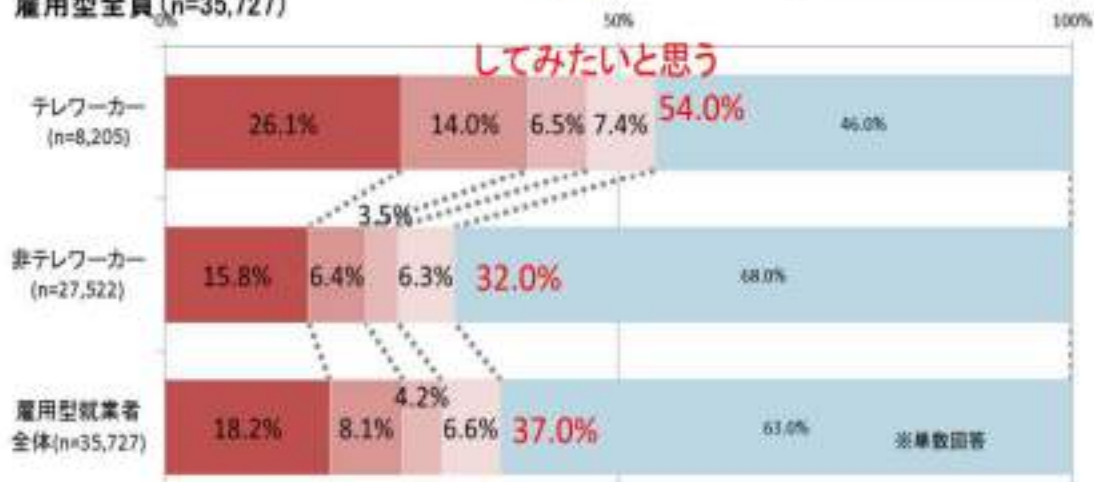


してみたいと思う  
約37.0%

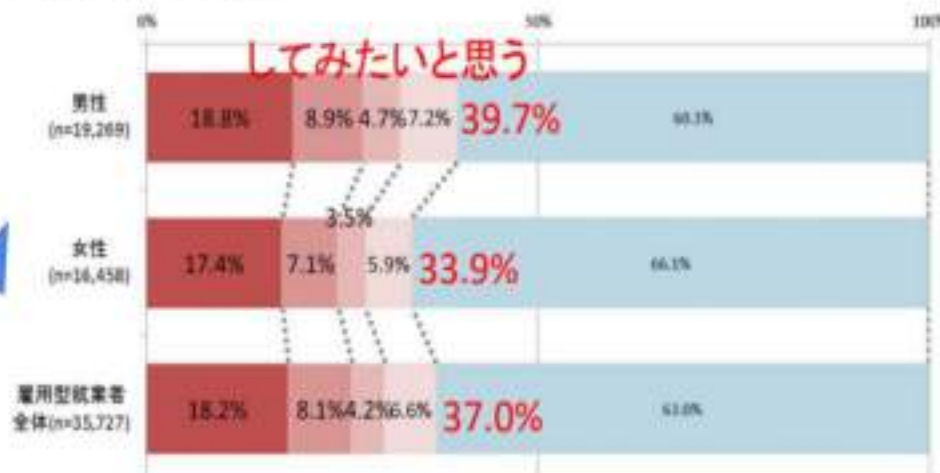
全体としては約**37%**の労働者がワーケーションに興味あり  
テレワーカーの間では**半数超**

若い人ほど関心が高く、  
男性の方が若干高い

雇用型全員(n=35,727)



雇用型就業者(n=35,727)



雇用型全員(n=35,727)



# ワーケーションの普及度と市場の見通し

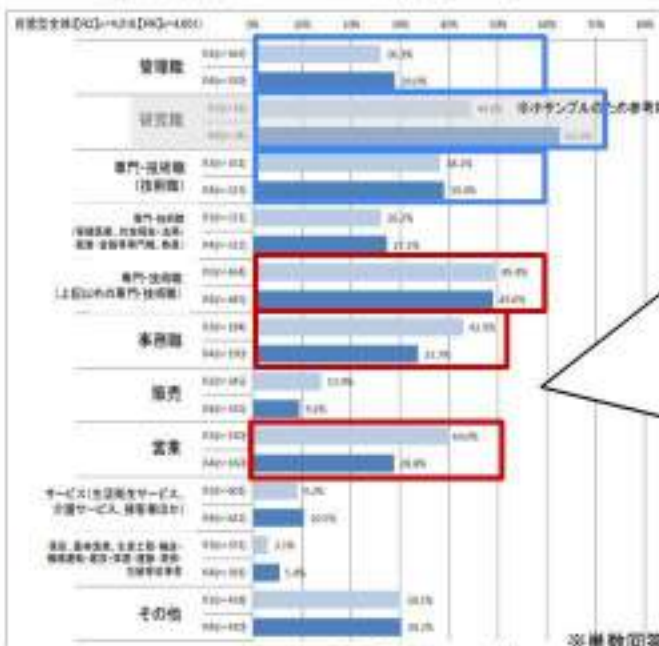
## 【業種別のテレワーク導入率】

上 令和3年の導入率  
下 令和4年の導入率

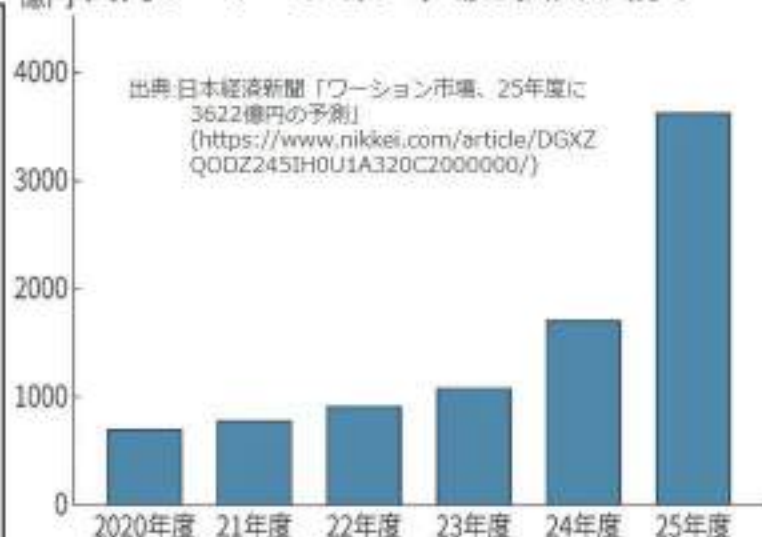
職種別 雇用型テレワーカーの割合[R3-R4]



職種別 自営型テレワーカーの割合[R3-R4]



## 国内ワーケーション市場は拡大が続く



出典: 日本経済新聞「ワーケーション市場、25年度に3622億円の予測」  
(<https://www.nikkei.com/article/DGXZQ0DZ245TH0U1A320C2000000/>)

(注) 矢野経済研究所の調査による。金額は予測

2020年度の市場規模は約700億円。  
2025年度には5.2倍の約3200億円に

・両グラフとも、管理職、研究職、専門・技術職(技術職)の割合はほぼ同じまたは増えている。  
このような業種にはテレワークが強く根付いていることがわかる。  
・専門・技術職、事務職、営業は減少している。

図35 テレワークの実施率



出典: 国土交通省「令和4年度 テレワーク人口実態調査 - 調査結果 -」

コロナで急激に上がったテレワーク実施率はここ2、3年減少している。

出典: 公益財団法人日本生産性本部「第12回 働く人の意識調査」

・今後ワーケーションの市場は拡大予測。  
・テレワーカー全体をみると減少傾向にある。一方で、業種別にみると管理職や研究職など、**テレワークが根強い業種もあるため、ワーケーションの需要は十分にある**と考えられる。

# ワーケーション：長崎県の事例



「長崎県庁(左)と  
島原市役所(右)に  
行ってきました!」

長崎県庁にて 近藤(中央)、地域づくり推進 島原市にて 商工振興課 松永さん(左)、  
課 梅田さん(右) 近藤(中央)、本多さん(右)

出典：どどん！～島原Jターン記～  
(<https://dodon-shimabara.com/2023/05/18/coworking/>)



## 【島原市】

H.U.B (写真上)・・・24時間貸出可能な coworking スペース。  
水脈-mio- (写真下)・・・古民家をリノベーション。ホテル、カフェ、 coworking スペースなどが入っている。



出典：長崎県杵崎市「サウンディング型市場調査」(<https://www.city/ki-nagasaki.jp/so-shiki/sdgs/sounding/9376.html>)

【杵崎市】フリーウィルスタジオ・・・リゾート型ワーケーションをモデルとしたリノベーション施設。中にはサテライトオフィスも。

## 【長崎県のワーケーションの仕組み】

～長崎県ワーケーション受入促進事業～

- ・県はワーケーション希望の法人を探す業務を**民間企業へ委託**（R5年度は新聞社）。
- ・新聞社等が紹介する法人と希望する市町村とをマッチング。
- ・ワーケーション事業を行いたい**市町村**は年度ごとに県に申し出る。
- ・基本的に市町村の**自治体職員**がワーケーションのプランを企業とコミュニケーションをしながら作成し、当日のお世話をする。
- ・それぞれの**市町村ごとに独自の**ワーケーション環境を整備する。
- ・値段は法人の予算次第。
- ・移動手段は、各自手配または自治体職員が手助け（島原市では自治体職員が送迎）。

## 【長崎県のワーケーションポイント】

- ・**県が主体**となって、ワーケーション枠組みを整備。
- ・**ワーケーションに特化した複合施設**を全国で初めて作った（杵崎市、左の写真参照）。
- ・五島市はワーケーション等の施策により、転入者数が転出者数を上回る**社会増**となったことで有名である。このような**成功例**と称される地域が県内にある。
- ・ワーケーション希望の**企業を探すことが大変**なことが課題。
- ・本社から離れたところに設置され、通信設備を整えた**サテライトオフィスの誘致**や**地域課題の解決**に重きを置いている。

# ワーケーション：日向市の事例

## 宮崎県日向市役所に行ってきました！！



4枚の写真は楠が撮影



楠(左)、日向市役所 新玉さん(右)

ワーケーションプランによっては、目の前の海でサーフィンや地元の方と船釣りを行うことができる



様々なスタイルのワーケーションオフィス  
テラス席も設けられており、どの場所にもWi-Fi完備

日向市のワーケーション施設は  
宿泊施設、ワークスペース、飲食店  
が**全て一か所**にまとまっている

## 【日向市のワーケーションの仕組み】

- ・日向市が人材派遣会社「**PERSOL**」に**業務委託**し、業務や運営を行なってもらう。
- ・PERSOLの宣伝サイトで募集し、**コンシェルジュ**が希望する**法人と話し合い**ながら、ニーズに合った滞在プランを考える。
- ・ワーケーションは基本的に複合施設「**SURF OFFICE**」で行う
- ・募集はPERSOLのサイトや日向市のワーケーション実証実験応募サイト等で行う。  
(3年間でのワーケーション実績: 80社**1,100**人)
- ・SURF OFFICEの貸し出し費用は1日11万円。宿泊費は一人一泊5千円  
(オフィスには約20人ほどが収容可能、カフェスペースなどの使用も可能な為、100人規模での貸し出しもできる)

## 【日向市のワーケーションポイント】

- ・総務省主催のワーケーションの全国大会であるコレクティブインパクトにおいて、全国6か所が選定される中、**唯一市単位で選定された**のが日向市である。
- ・市区町村単位でワーケーション事業を成功させたのは**全国で日向市が初めて**
- ・ワーケーションプランを計画してくれる**コンシェルジュ**が2名市内にいる。  
(ワーケーションプランは**オーダーメイド制**)
- ・今後の課題としては、宮崎空港から日向市まで・滞在中の移動手段が挙げられる。  
現在は各法人が自分で手配。

# 鳥羽市の「ワーケーション」の現状

## 【鳥羽市役所で聞いたこと】

- ・令和2年度に、ワーケーションに取り組みたい事業者を対象とした補助金制度を設けたが、それ以降予算は下りていない。
- ・市長は、今いる人にとって住みやすい街づくりを目指しており、移住者や**人口増加に重点をおいていない**。
- ・ワーケーションについては、事業者の取り組みを尊重し、民間への援助はしても、**県や市主導では行わない**。



KUBOKURIにて 左から濱地さん(伊勢で地域おこし活動をしている)、移住コーディネーター ブルックさん、地域おこし協力隊 日下さん、近藤、田中

## 【宿泊施設のワーケーションプラン】

素泊まりや海の幸を堪能できるコースの2種類程度である。その他、類似のものとして旅館でのおてつたびがある。いずれも**宿泊施設内で完結する形**となっている。

## 【合同会社NAKAMACHIのワーケーションプラン】

NAKAMACHIとは、昭和の良き時代に鳥羽の台所と呼ばれたなかまちの地域おこしを行っている会社である。空き家を改装した宿泊施設(リド・ポルテ)とコワーキングスペース(KUBOKURI)がなかまちの中にあり、両施設を共に利用する形のワーケーションが可能となっている。法人向けの案内ツアーも行う。

## KUBOKURIとは？

なかまちにある空き家をリノベーションした施設で、中には地元で愛されるカフェやちゃんぽん屋さん、コワーキングスペースが入っている。NAKAMACHIや地元住民の改装作業により現在も進化中。

## 【コワーキングスペース】

鳥羽駅周辺に、レンタル形式のコワーキングスペースが**3か所**。

例：鳥羽フェリーターミナル

## 【ワーケーションに取り組む宿泊施設】

- ・鳥羽、南鳥羽、離島の3エリアにワーケーション事業を行うホテル・旅館が**6か所**。
- ・ワーケーション対応の貸切宿泊可能施設が**2か所**。

例：鳥羽シーサイドホテル、  
「Anchor.」漁師の貸し切りアジト

ワーケーションのプランや、施設紹介のまとめサイトはネット上にあるが、「ワーケーション」という検索ワードで探さないとサイトにたどり着かないことがほとんど。

## 地域おこし協力隊の日下さんへのインタビュー

- ・長崎県や日向市とは違い、ワーケーションの滞在プランを考えてくれる（日向市の）**コンシェルジュにあたるサービスはない。**
- ・コワーキングスペースでの仕事は、**地元の人とのふれあいが生まれる**という点で、宿泊施設での仕事と大きく違う。仕事場への移動や休憩時間の散歩は、外に出て**町を知る機会になる。**
- ・鳥羽市長は移住事業に重点を置いていないし、観光協会の力が強いので、**民間主体**のワーケーションにならざるを得ない。
- ・鳥羽は観光地がある程度まとまっており、また、電車やバス、フェリーなどの交通機関もあるため、徒歩でも散策できる。車で来て地域をまわる人も多い。
- ・移住者の中にはバイク好きや、釣り好きの方が多い。鳥羽市周辺には、パールロードなど、良いツーリングコースがたくさん。空き家バンクの問い合わせでは、釣りやマリンスポーツ等の趣味ができる海沿いの家がよく売れる。

**日下さんのプロフィール**  
不動産業を大阪で営む傍ら、鳥羽市で地域おこし協力隊をしている。合同会社NAKAMACHIのメンバーであり、不動産の経験・知識を生かした空き家バンクの運営、KUBOKURIの運営を手がける。



## 長崎県、日向市、鳥羽市の比較まとめ

	長崎県	日向市	鳥羽市
運営	県と市町村	PERSOL(市はお金だけ)	各事業者
ターゲット	法人	法人	法人と個人
コンシェルジュ	自治体職員(島原市など)	PERSOL(市の外注)	なし
宿泊&仕事場	自治体職員が手配 (島原市)	SURF OFFICE	宿はたくさんある 各自で手配
募集方法	県の民間企業への委託	PERSOLの宣伝サイト	各事業者へ問い合わせ
値段	法人の希望次第	11万+5千×宿泊人数/1日	施設による
移動手段	法人が各自手配 または送迎(島原市など)	レンタカーを各自手配	各自手配
課題	希望企業をどう探すか	移動手段	コンシェルジュがない
その他特徴	サテライトオフィスの誘致 ワーケーション複合型施設	日本で初のブランドカ ワーケーション専用オフィス	市や県の関与が低い

ワーケーションの代表的地域（長崎県、日向市）を参考に、鳥羽市の資源を生かした**新しい形**のワーケーションを考案



個人（個人事業者やフリーランス、テレワーカー等）を対象とした**ワーケーション宿泊プランの多様化**



# 政策提案：個人向けワーケーションプランの概要とメリット

運営：長崎県、日向市ともに、自治体が大きな役割。対して鳥羽は自治体の関与はなく、民間の事業者が各自で取り組んでいるため、それら**民間事業者を中心に**考える。（三重県や鳥羽市が推進するのは現実的ではない）

ターゲット：**個人**（個人事業者やフリーランス、テレワーカー）に置く。なぜなら、長崎県のように、ワーケーション実施法人を事業者自ら探すのは大変。日向市のように先駆者としてのブランド力が鳥羽にあるわけでもない。費用も少なく、一人（または少人数）行動のため、**自分に合ったプランをお手軽に**利用してもらえる。

コンシェルジュ：長崎県のように自治体がコンシェルジュを請け負えるわけではない。日向市のように外注する予算があるわけでもない。そこで、**最初から滞在計画がある程度組まれた多様な宿泊プラン**の提案。プランは**各事業者の協力**によって、**それぞれ無理のない範囲で作成**。

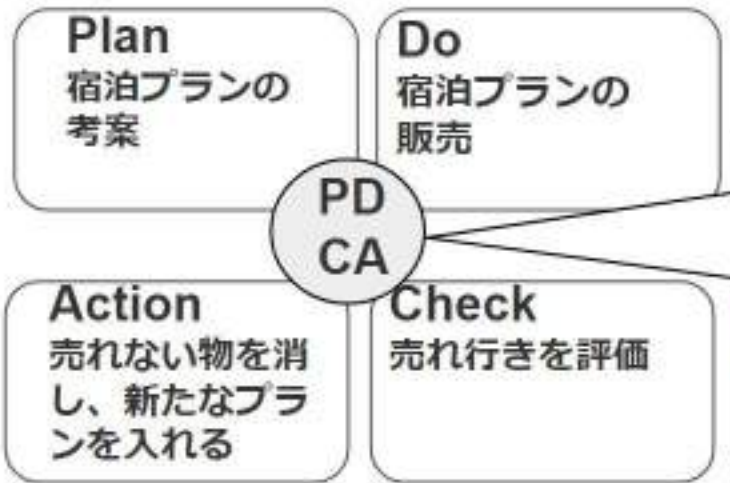
宿泊&仕事場：宿泊プランの中で、宿泊場所、仕事場所（複数選択肢を用意するのも良い）などを決めておく。宿泊施設だけで完結するもの（**従来型**）と違い、**宿泊事業者と仕事場などでの連携が必須**。各事業者が**ユニークなプラン**を考案。**どの宿泊施設も新規に事業を始めやすい**。

募集方法：**旅行予約サイト**（宿泊プランの一つとして）やチラシ、新聞への掲載等。ターゲットを個人に置いているため、長崎県のように**法人を探してくる必要がない**。

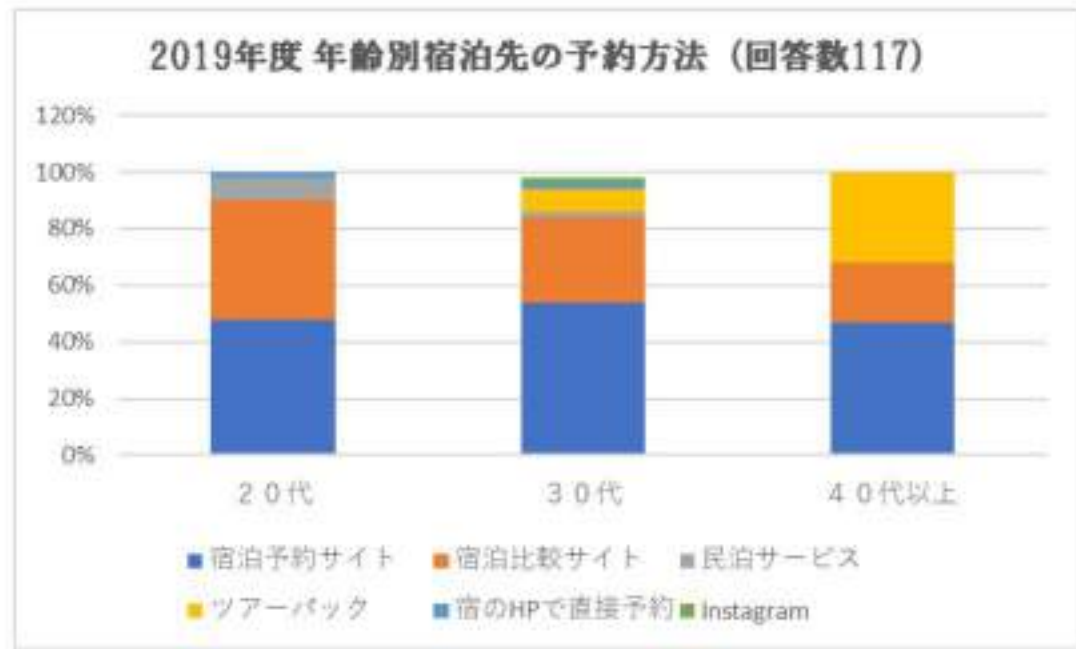
値段：**様々な値段のプラン**を用意すれば様々な需要に応えられる。

移動手段：日向市では空港から施設までの移動手段の課題があった。鳥羽には**電車やバスがある他、個人でのワーケーションなら車で来やすい**。また、なかまちや駅周辺では徒歩で十分移動が可能。観光地もまとまっており、離島に行く際もフェリーが巡航している。

# 政策提案：プランの4PとPDCA



時期各に人気のないプランは別のプランに変更していくことでその時の需要に応える。



出典：Stayway「アンケート結果発表！令和世代の旅行は、Instagramが不可欠に？」をもとに作成。(https://stayway.jp/tourism/travel-survey2019)

20代だけでなく30代、40代以上の人でもインターネットのWebサイトで宿泊先の予約をしているので、旅行予約サイトにプランを載せるのが**宣伝効果大**。また、比較的**若い層の利用が期待できる**。

# 政策提案：プランの例 (目下さん監修)

## 新しいワーケーションの形

従来型  
宿泊施設内で完結  
例：素泊まりや料理付きプラン



例1: なかまちワーケーションプラン  
～宿泊+仕事場+地域住民交流会(夕食)～

宿泊地：リド・ポルテ  
仕事場：KUBOKURI  
地域住民交流会：花清水（ちゃんぼん屋さん）  
ポイント：KUBOKURI内ではカフェやちゃんぼん屋さんの利用者など、地元住民と交流がしやすい。近くには真珠島、烏羽城跡などがあり休憩時間に巡れる。

例3: 離島周遊ワーケーションプラン  
～宿泊+仕事場+離島フェリーチケット～

宿泊地：答志島くつろぎの宿「美さき」  
仕事場：旅館内のコワーキングスペース  
フェリーチケット：宿泊とセットで割安に提供  
ポイント：三島由紀夫の代表作で、何度も映画化された「潮騒」のモデルになった神島、江戸川乱歩ゆかりの坂手島、縄文・弥生時代の遺跡がある答志島、イルカ島など魅力的な島々で過ごし、仕事に刺激を。

例2: 空き家DIYワーケーションプラン  
～宿泊+仕事場+DIY体験～

宿泊地：ホテルまたは旅館（例：烏羽国際ホテル）  
仕事場（例）：KUBOKURI  
DIY体験（例）：KUBOKURIでの空き家DIY。仕事をしながら仕事場を充実させる面白さを体験しませんか。  
ポイント：自分が作り出すことでその場所や地域への愛着が生まれ、リピーターを増やしやすいかも。

例4: 海女さんワーケーションプラン  
～宿泊+仕事場+海人さんとの交流～

宿泊地：貸切ゲストハウスアラシマイン  
仕事：施設内の設備を利用  
海女さん：海女さんの仕事見学をして、一緒にお昼ご飯を食べる  
ポイント：普段接することがない海女さんとの交流、仕事見学を通じ、烏羽の文化や風土について深く知ることができる。

プラスワン

近くのコワーキングスペース、息抜きができる散歩コースや飲食店などを掲載した、ワーケーション利用者専用の地図やパンフレット（デジタル版も可）を作成し、宿泊施設で利用者へ配布をすることでスムーズな周遊が可能に

# 経済波及効果

経済波及効果・・・ある産業に新たな需要が生じ、その需要に対する生産活動が拡大すると、原材料や資材などの取引や消費活動を通じ、他の産業に次々と、**波紋を起こすように多方面に影響を及ぼす過程のこと。**

今回は環境省の経済波及効果分析ツールを用いて分析する。

## 観光振興(観光客数の増加)の設定

以下の1～3を入力してください

### 1. 観光客の増加数を入力してください

観光客の増加数(人)  人

### 2. 支出金額(観光1回)の原単位を入力してください

支出内容	1人当たり支出金額(円/人・年)		域内調達率 (%)
	日帰り客 (円/人・回)	宿泊客 (円/人・回)	
コメ、野菜、肉などの農産品、畜産品のお土産(加工品を除く)	348	354	28.9
魚、えび、かに、いか、海藻などの水産品のお土産(加工品を除く)	213	335	100.0
肉や魚などの加工食品、乳製品、飲料など(加工品)	1,045	2,101	15.8
キーホルダーなどの雑貨、民芸品	1,661	3,101	28.9
鉄道、バス、タクシーなどの交通	6,018	12,761	20.0
飲食、宿泊などの対個人サービス	2,230	17,638	100.0
温泉、遊園地、美術館、博物館等の娯楽サービス	1,840	2,309	56.7

### 3. 観光客のうち宿泊客の割合を入力してください

観光客のうち宿泊客の割合(%)  %

## 分析の際の設定値について

① 観光客数の増加数  
次のページに記載

② 支出額(観光1回)の原単位  
平均的な値を用いた。

③ 観光客のうち宿泊客の割合  
鳥羽市の2018年の観光客数が約356万人、宿泊者数は約142万人であったため、割合は**約40.0%**であった。

出典:鳥羽市観光統計「観光客及び宿泊者数の推移(H20-R4)」

出典:環境省「環境省ローカルSDGs地域循環共生圏」  
(<http://chiikijunkan.env.go.jp/manabu/bunseki>)

# 経済波及効果分析

項目	愛知	大阪	三重	東京	兵庫	京都	神奈川	岐阜	奈良	埼玉	千葉	単位
(A) 就業者数	418万 <sup>1)</sup>	465万 <sup>2)</sup>	94万 <sup>3)</sup>	833万 <sup>4)</sup>	278万 <sup>5)</sup>	135万 <sup>6)</sup>	502万 <sup>7)</sup>	112万 <sup>8)</sup>	66万 <sup>9)</sup>	403万 <sup>10)</sup>	554万 <sup>11)</sup>	万人
(B) 地域別 テレワーカーの割合	22% <sup>12)</sup>	26% <sup>13)</sup>	22% <sup>14)</sup>	38% <sup>15)</sup>	26% <sup>16)</sup>	26% <sup>17)</sup>	38% <sup>18)</sup>	22% <sup>19)</sup>	26% <sup>20)</sup>	38% <sup>21)</sup>	38% <sup>22)</sup>	%
(A)×(B) 地域別 テレワーカー数	919,600 <sup>23)</sup>	1,209,000 <sup>24)</sup>	206,800 <sup>25)</sup>	2,988,000 <sup>26)</sup>	732,800 <sup>27)</sup>	351,000 <sup>28)</sup>	1,907,600 <sup>29)</sup>	246,400 <sup>30)</sup>	171,600 <sup>31)</sup>	1,531,400 <sup>32)</sup>	2,107,480 <sup>33)</sup>	人
(D) 地域別 ワーケーション割合	2.5% <sup>34)</sup>	2.5% <sup>35)</sup>	2.5% <sup>36)</sup>	9% <sup>37)</sup>	2.5% <sup>38)</sup>	2.5% <sup>39)</sup>	9% <sup>40)</sup>	2.5% <sup>41)</sup>	2.5% <sup>42)</sup>	9% <sup>43)</sup>	9% <sup>44)</sup>	%
(C)×(D) 地域別 ワーケーション数	22,990 <sup>45)</sup>	30,225 <sup>46)</sup>	5,170 <sup>47)</sup>	268,920 <sup>48)</sup>	18,070 <sup>49)</sup>	8,775 <sup>50)</sup>	171,684 <sup>51)</sup>	6,160 <sup>52)</sup>	4,290 <sup>53)</sup>	137,826 <sup>54)</sup>	189,679 <sup>55)</sup>	人
(E) ワーケーション 割合の合計	863,783 <sup>56)</sup>											人
(G) 地域別 宿泊者数	13,817,550 <sup>57)</sup>	20,522,480 <sup>58)</sup>	6,880,120 <sup>59)</sup>	39,926,970 <sup>60)</sup>	12,632,720 <sup>61)</sup>	21,110,420 <sup>62)</sup>	22,998,800 <sup>63)</sup>	8,489,670 <sup>64)</sup>	2,071,520 <sup>65)</sup>	4,629,240 <sup>66)</sup>	22,800,170 <sup>67)</sup>	人
(H) 宿泊者数合計	203,086,660 <sup>68)</sup>											人



鳥羽市を訪れるワーケーション  
人数を求めるため、鳥羽市に  
訪れる人が多い11都府県の  
テレワーカーの割合、次にその  
人数から考えられるワーケー  
ション人数を推計した。  
それらを行ったのが左図であ  
る。

出典：総務省統計局「労働力調査」(<https://www.stat.go.jp/data/roudou/pref/index.html>)  
国土交通省「令和4年度 テレワーク人口実態調査 - 調査結果 -」  
(<https://www.mlit.go.jp/report/press/content/001598357.pdf>)  
独立行政法人統計センター(2023年11月23日に利用)  
(<https://www.nstac.go.jp/sys/files/static/statcompe/files/2020/2020H51-toku1.pdf>)をもとに  
作成

- ・ 三重県を訪れるワーケーション人数：ワーケーションの割合合計×三重県の宿泊者数÷11都府県の宿泊者数の合計  

$$=(F) \times 6,880,120 \div 203,086,660 = 29,263(\text{人})$$
- ・ 鳥羽市を訪れるワーケーション人数：三重を訪れるワーケーション人数×鳥羽市の宿泊者数÷三重県の宿泊者数  

$$= 29,263 \times 1,427,751 \div 6,880,120 = \underline{6072(\text{人})}$$

# 経済波及効果分析の結果

## 施策の内容と経済波及効果の算出結果

### (1) 施策の内容

#### 施策メニュー

観光振興(観光客の増加)

#### 施策規模の設定値

項目	設定値	単位
観光客の増加数	6,072	人

#### 観光客1人当たり支出金額の設定値

項目	日帰り客 (円/人・日)	宿泊客 (円/人・日)
食料 (朝食前、朝食後の加工食品を除く)	348	354
小売業 (水産物の加工品(加工品を除く))	217	325
農林業 (飲食料品(加工品)の加工)	1,045	2,101
その他の製造業 (観光、観光客等の加工)	1,661	3,101
運輸・郵便業 (鉄道、バス、タクシー等の交通費)	6,018	12,761
宿泊・飲食サービス業 (宿泊費、飲食費)	2,230	17,638
その他のサービス (温泉、遊園地等の娯楽費)	1,840	2,360

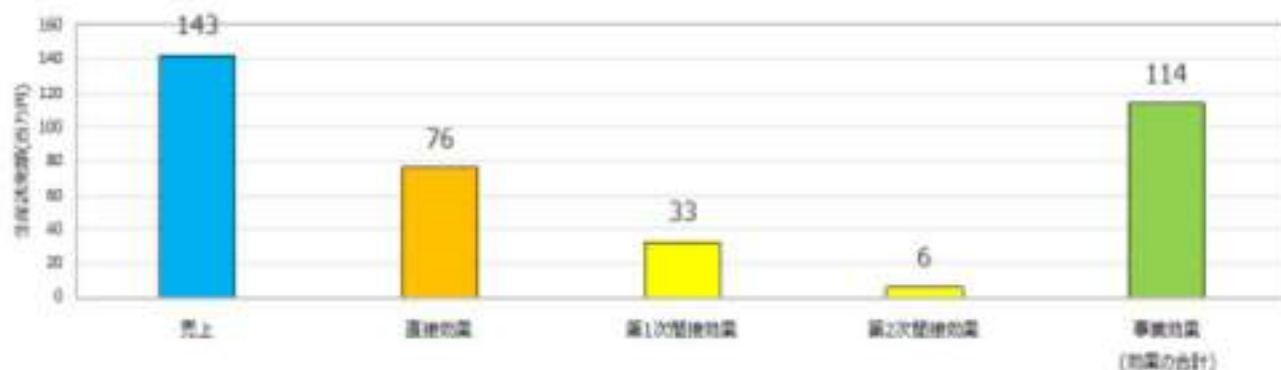
#### 国内調達率<sup>注1</sup>の設定値



注1)観光客の支出金額の5%、2/3は地域内で支出しているものを算出

### (2) 経済波及効果の算出結果<sup>注2</sup>

観光客が6,072人増加し、地域内での支出が増加することによる経済波及効果は、**直接効果が76百万円**であり、**間接効果を加えた効果の合計は114百万円**である。



## 算出結果

この結果は、地域外から雇用や原材料などを調達することで、売上が地域外に流出することなど、**効果が地域外へ流出**することを考慮している。

地域内の売り上げは3800万円であり、このうち地域外の売り上げを除いた地域内の**直接効果は7600万円**となる。第1次間接効果は900万円、第2次間接効果は200万円であり、直接効果とあわせた**事業効果の合計は1億1400万円**となる。

## 参考文献

- ・ RESAS地域経済分析システム（2023年9月15日に利用）（<https://resas.go.jp/#/24/24211>）
- ・ 三重フォトギャラリー（2023年9月15日に利用）（<https://photo.mie-eetoko.com/>）
- ・ precious（<https://precious.jp/articles/-/6615>）
- ・ 環境省「環境省ローカルSDGs 地域循環共生圏」（2023年9月15日に利用）（<http://chiikijunkan.env.go.jp/manabu/bunseki>）
- ・ 三重県庁「みえDataBox」（2023年9月15日に利用）（<https://www.pref.mie.lg.jp/DATABOX/87797000001.htm>）
- ・ 三重県鳥羽市観光課「令和4年鳥羽市観光統計料」（2023年9月15日に利用）（<https://www.city.toba.mie.jp/material/files/group/2/r4kankotoukei.pdf>）
- ・ 総務省「関係人口ポータルサイト」（2023年9月15日に利用）（<https://www.soumu.go.jp/kankeijinkou/about/index.htm>）
- ・ 観光庁「新たな旅のスタイル」（2023年9月15日に利用）（<https://www.mlit.go.jp/kankocho/workation-bleisure>）
- ・ 総務省統計局「労働力調査」（2023年9月15日に利用）（<https://www.stat.go.jp/data/roudou/pref/index.html>）
- ・ 独立行政法人統計センター（2023年11月23日に利用）（<https://www.nstac.go.jp/sys/files/static/statcompe/files/2020/2020H51-toku1.pdf>）
- ・ 独立行政法人 統計センター（2023年9月15日に利用）「空き家増加問題を相関関係から読み解く」（<https://www.nstac.go.jp/sys/files/static/statcompe/files/2020/2020H51-toku1.pdf>）
- ・ 国土交通省「令和4年度 テレワーク人口実態調査 - 調査結果 -」（2023年9月15日に利用）（<https://www.mlit.go.jp/report/press/content/001598357.pdf>）
- ・ 日本経済新聞「ワーション市場、25年度に3622億円の予測」（2023年9月15日に利用）（<https://www.nikkei.com/article/DGXZQODZ245IH0U1A320C2000000/>）
- ・ 公益財団法人日本生産性本部「第12回 働く人の意識調査」（2023年9月15日に利用）（<https://www.jpc-net.jp/research/detail/006234.html>）
- ・ どどん！～島原Jターン記～（2023年9月15日に利用）（<https://dodon-shimabara.com/2023/05/16/coworking/>）
- ・ 長崎県壱岐市「サウンディング型市場調査」（2023年9月15日に利用）（<https://www.city.iki.nagasaki.jp/soshiki/sdgs/sounding/9376.html>）
- ・ Stayway「アンケート結果発表！令和世代の旅行は、Instagramが不可欠に？」（2023年9月15日に利用）（<https://stayway.jp/tourism/travel-survey2019>）